

議事の記録と公表について

令和5年度第2回奈良県歯と口腔の健康づくり検討委員会

議 事 要 旨

日 時：令和5年11月17日（金）午後2時00分～午後4時00分

場 所：奈良県社会福祉総合センター 6階 中会議室

出席者：（委員長）桐田忠昭

（委員）浅芝好子、中川昌代、七浦高志、南島正和、吉福美香

概 要：

議題【報告】1 なら歯と口腔の健康づくり計画の最終評価について

以下、主な意見

- ・ この結果を踏まえ、県の評価としてどうとらえているか。（委員）
 - 設定指標の4分の3が改善したので県民の歯科口腔保健は概ね向上したととらえる。ただ悪化した指標が青年期・壮年期のところに集中しているので、これから策定する第二期計画においても引き続き取り組みが必要だと考えている。（事務局）
 - 受診機会がないとか、検診機会がないとか、そういうことが影響しているのではないかと思う。（委員長）
 - コロナの影響で、学校に指導に行けなかった。青年期の受診機会とか、結果に影響していると思う。（委員）
 - 次期計画においても青年期・壮年期の取組が必要だと思う。（委員長）

議題【審議】1 なら歯と口腔の健康づくり計画の改定について

以下、主な意見

（1）第1章 計画の概要

- ・ 咀嚼良好者の割合は、具体的にどう調べるのか。（委員長）
 - なら健康長寿基礎調査で、「食事を噛んで食べる時の状態はどれに当てはまりますか。」という質問に対して、3択で「なんでもかんで食べることができる。」「歯や歯ぐきやかみ合わせなど気になる部分があり噛みにくいことがある」「ほとんどかめない」のうち「なんでもかんで食べることができる。」と回答した人の割合。主観的な判断になる。（事務局）

令和5年度第2回奈良県歯と口腔の健康づくり検討委員会 議事要旨（一部抜粋）

<https://www.pref.nara.jp/secure/211119/R5-2-gijiyoshi.pdf>

小林委員（奈良県議会厚生委員会委員長）：

私としては、減っている病床の内訳に問題があると思っています。急性期は今後まだまだ減少していくのかなと思うのですが、地域医療構想ができた時は、まだ新型コロナがこのような状況になる前のことで、それで構想を出されているわけです。新型コロナの感染が広がって、入院ができにくいという方が非常に増えてくるという中で、この構想の全体的な目標については、いろいろな状況を考慮して、やはり見直しをされるべきではないかという意見です。結論を言えば、病床数は減らすべきではないというのを私の意見として申し上げておきたいと思います。

青山委員（奈良県病院協会会長）：

資料 8 ページの下の方、「病院における流れ」というところに 5 つ項目があります。その 1 番目に「10 床以上の削減を伴う機能再編の検討」ということからスタートするという形になっています。しかし民間病院としては、1 床でも削減されるということになるとなかなか議論になっていかないということです。ですので、この項目の 10 床削減という条件を外していただきたい。

民間病院としては、コロナ禍での問題もありますけども、この 2025 年問題だけでなく、今後の長いスパンで見ると、病床削減をある程度しないといけないかも知れません。それを現時点で先に 10 床削減があります、と言われるとすごく相談しにくいです。この辺をもう一度考えていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

事務局（塚本係長）：

本事業は、議事 2 にありました地域医療介護総合確保基金を活用した取組となっておりますので、基金を活用する中で、ある程度の削減というものが条件になっているところもあります。

おっしゃっていただいた意見を参考にしまして、こういった取組をさせていただくのがいいのかというのを再考していきたいと思います。ご意見ありがとうございました。

第 67 回奈良県医療審議会 議事録（一部抜粋）

<https://www.pref.nara.jp/secure/210190/67gijiroku.pdf>

議題(2) 第4期奈良県食育推進計画の推進について 1) 指標の設定について(追加分)

<事務局(健康推進課)>

第4期計画の 35 個の指標のうち、現状値が未把握であった 5 つのうち、現状値が把握できた 4 つについての報告と、令和 6 年度に目標値を設定するとしていた 2 つについて、ご審議をお願いします。

(資料 1 にもとづき、説明)

<上地議長>

事務局から提案のあった「人と比較して食べる速度が速い人の割合」の目標値について、ご意見等お願いします。

全国との比較についても、富岡委員から補足説明をお願いします。

<富岡委員>

(追加提出資料に基づき説明)

7P 下のグラフ、「人と比較して食べる速度が速い者の割合」について、全国平均は男性が 36.1%、女性が 27.3%になっています。これに対して、奈良県の男性は 37.8%、女性が 28.4%と、全国平均と比較して食べる速度が速い。簡単に言うと、速食いの人の割合が奈良県は、全国平均より高いことになります。ただし、このデータ元になる NDB は特定健診の対象者、すなわち 40 歳以上 74 歳までが対象になっておりますので、県のなら健康長寿基礎調査の場合は 20 歳以上の方ですが、NDB データには 20、30 歳代のデータは含まれません。

8p 「人と比較して食べる速度が速い」は特定健診の質問項目で、「速い」「普通」「遅い」が 1/3 に分かれることをねらった質問です。奈良県は「速い」が 33.4%ですが、「ふつう」と回答した人が約 6 割いて、3 分割できていない。質問の限界、日本人は 3 択の真ん中を選びたい国民性があるので、日本人特有なのかと思われるので、そういう意味では、研究者からすると「人と比較して」を指標にするのはどうなのかなと感じるところがあります。

議長もお感じかなと思いますが、実態としては、働き盛り世代が課題というところは綺麗に抽出できていますし、何よりも、奈良県では、食べる速度に注目しなければならない、下げていかなければならない。これを目標にするのは、いかななものかなというところがあるにしろ、奈良県として非常に大事だということ、NDB データと比較することで根拠になるかと思います。働き世代に着目して、奈良県は目標値を設定されたことは、非常に奈良県の計画としては、適していると思われます。

令和6年度 第1回奈良県食育推進会議 会議の概要 (一部抜粋)
<https://www.pref.nara.jp/secure/46178/02gijigaiyou.pdf>

今後は議事概要として、委員名を記録した形で発言内容を記録したい。